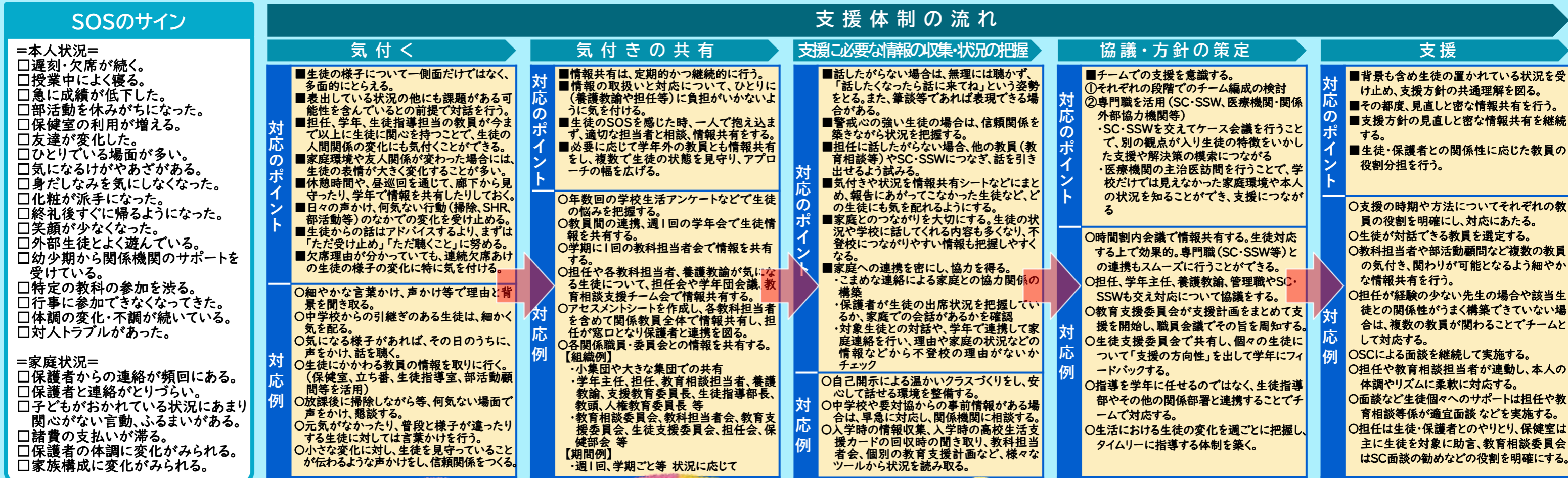


不登校生徒支援のためのアプローチチャート

～ 初期対応を中心に～

「生徒の様子で心配なことがあるなあ。」「どう支援していけばいいの?」など、気になる生徒はいませんか。このチャートでは、不登校生徒支援の初期対応を中心に、支援体制の流れにおいて気を付けるべき事柄や動きをまとめています。支援は、生徒の状況によって日々変化します。うまくいかなかったときは、支援体制の流れの前段階に戻り再考していくことが大切です。SOSのサインがみられる生徒への継続性のある支援をめざしましょう。



ほんまもんの信頼関係

生徒との信頼関係は、一朝一夕にできるものではありません。地道に時間をかけて作り上げていくものです。時には厳しく指導し、将来を心配し、悲しみを共有して涙する。この積み重ねが生徒からの信頼を築いていくのです。生徒が教員を信頼したときこそ、生徒の抱える秘密を話してくれます。そのとき、生徒を裏切らない覚悟も必要です。そのすべてが、信頼される教員に求められます。日々善行を積み、我々の成長も必要なのです。

記録と情報共有

ほうれんそう(報告・連絡・相談)のために記録と情報共有のポイントを確認しましょう。記録の基本項目は5W1Hですが、支援を考える際はもう少し詳しい情報が必要です。面談を実施したならば会話の内容と表情や顔色、電話ならば相手の声のトーン、病院を受診したならば薬は処方されたか、医師から助言があったか、次回の通院はいつかなど、次の動きや支援の目標を意識しながら記録し、関係者で情報共有する機会をもつことが大切です。

「さぼり」「怠惰」の根っこは?

子どもの欠席理由を問われたとき、「さぼり」「怠惰」と聞くことはよくあります。実際に生活習慣の乱れから「朝起きられない」「登校意欲がわかない」と欠席するケースがあることも事実です。しかし「さぼり」「怠惰」と見立てることで、それ以上の情報収集や、別の見立てを考える機会を放棄していませんか。さぼりや怠惰の背景に、「何かあるのではないかと考える想像力が求められます。

つながること

子どもにとって友達とのつながりは何より力になります。大人だって同じです。教員間でも保護者ともつながることは力になります。普段から些細なことでも話し合い、意見を交換しながら一緒に考えることで信頼関係を構築できるのではないのでしょうか。困った事態が起きた際に誰が悪いのか犯人捜しをしたり対立したりするのはなく、関わる人がつながり、より良い未来に向かえるように協力していきたいものですね。

「大丈夫」?

気になる生徒に「大丈夫?」と尋ねると、「大丈夫」と返答することがあります。「大丈夫」の言葉には、安心な状況を表していることもありますが、一方で、「大丈夫じゃない」と答える、面倒くさいことになるから「大丈夫」と答えたり、自分に関わってほしくないから「大丈夫」と答えたりすることがあります。気になることがあれば、具体的に聞いてみましょう。

「保健室」とつながる意味

保健室は「身体症状」を通して、子どもが困っていることや悩みをゆっくり聴くことのできる場所です。安心できる環境で、子どもたちは「学校」「勉強」「家庭」「友達」など色々な話をします。案外、他の子どもの様子も話すと、友人関係の変化や授業・クラスの雰囲気など、多くの子どもたちの最新情報が集まっています。日頃から積極的に保健室とつながって、子どもを見立てるヒントを集めましょう。

すこやかコラム 支援するとき大切にしたいこと

関係機関との連携

| 対応のポイント | 関係機関一覧 |
|--|--|
| ■状況が悪化する前に迅速に相談する。 ■学校でできること、連携機関がおこなうことなど役割を明確にし、連携して支援にあたる。 | ～生徒の状況に応じて相談先を検討しましょう～ ◆大阪府教育センター:すこやか教育相談 ◆大阪府高等学校教育支援センター(ルボン) ◆大阪府子ども家庭センター(府下6か所) ◆市町村(子ども支援、人権、障がい者福祉、生活福祉など) ◆社会福祉協議会 ◆発達支援センター ◆地域生活支援センター ◆大阪府発達障がい者支援センター(アクト大阪) ◆障がい者就業・生活支援センター ◆大阪府少年サポートセンター ◆大阪府立子どもライフサポートセンター ◆大阪府法務少年支援センター(大阪少年鑑別所) ◆性暴力救済センター大阪SACHICO ◆クレオ大阪女性総合相談センター ◆医療機関 ◆保健所 ◆警察署 ◆NPO法人(居場所づくり、不登校支援、生活支援など) |
| 対応例 | |
| ○医療機関につなげ、本人への対応に関係職員と共有し、共通した支援をする。 ○OSCの相談につなげ、家庭の状況によってはSSWIに相談をする体制をとる。 ○中学校での状況を関係機関に聞きとる。 ○緊急性のある場合のつなぎ先を明確にする。 ○状況に応じて担当者間だけの話にとどまらず、関係機関を含めてのケース会議を開催する。 | |